

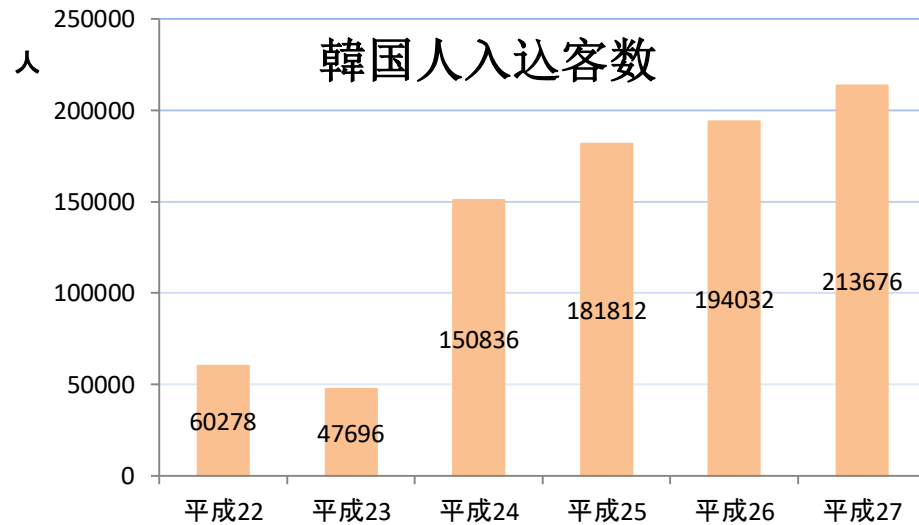
チーム名	九州産業大学 観光学科	大学・学部	九州産業大学 観光学科	長崎県国境離島ステージ
プラン名称	国境のまち対馬で楽しむ利き酒交流イベント			
リーダー名	本告健人	テーマ	※選択したテーマに○をつけてください。 () ①「しま」ならではの「観光まちづくり」 (○) ② 島がうるおう「観光まちづくり」	本選出場 【JTB賞】
指導教職員名	千相哲			
メンバー名				

2018.8.21 九州産業大学 商学部 観光産業学科 特別ゼミナール

現状と問題定義

1.現状

・古くから日本と韓国を繋ぐ重要な役割を担ってきた対馬。現在も観光客は増加傾向にあり、年間36万人の韓国人観光客が訪れている。また国際航路(4社)の運航やCIQの整備も進んでおり、島への外国人の受け入れ態勢は整いつつある。しかし、島民全員が歓迎してはならず、島民と外国人韓国客の間には摩擦が生じている。



2.問題

・島民と韓国人がお互いに交流する機会があまりないため、文化やマナーの違いを理解できずに韓国人の来島に好意的ではない島民も少なくない。現地で島民にアンケート調査をしていくと、韓国人観光客のマナー(飲食店、交通、ゴミ)の問題を指摘する意見が多かった。また、対馬には多くの韓国系企業が参入しており、観光客が来ても地域は恩恵を受けづらい状態で地域経済も衰退してる。メイン通りを見ても島民が個人で営業している店は少なく、閑散としている印象を受けた。

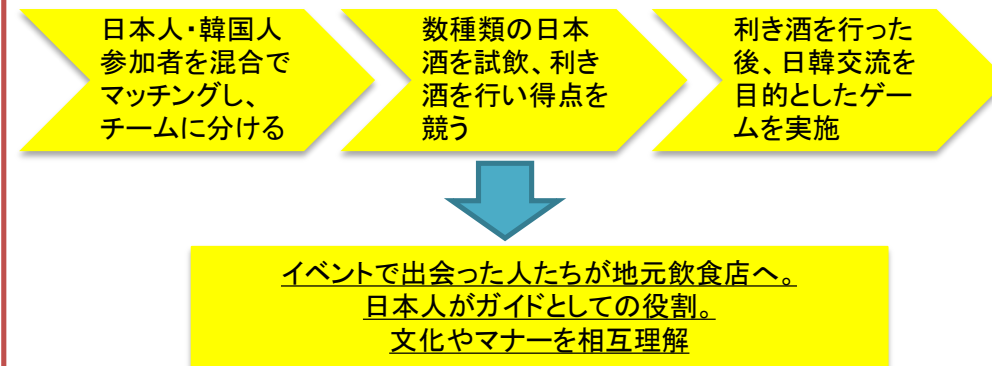
3.課題

・問題で挙げたように、対馬には島民と観光客の間には互いへの理解や意識の相違という問題がある。これを解決するには島民と観光客の現地での交流の場・企画を作り、実行することが必要であり、今後問題解決をしていく上でのかっかけになると考えた。

企画・提案

提案:利き酒交流 ～対馬で繋がる韓国と日本～

ターゲットは日韓両国の20代の若者と島民に決定した。理由は日本の若い人の中ではK-popの人気や根強い韓国人気があり、韓国人との交流を求めている人は多い。一方で国土交通省観光庁の外国人消費動向調査によると、外国人観光客の旅行の目的の第1位には「日本食を食べること」が挙げられ、同時に多くの観光客が旅先で日本酒を飲むというデータが出ている。事前予約制で日本人・韓国人のツアー参加者各30名+島民10名程度に設定



・集客方法

島民、韓国人観光客、日本人大学生に参加してもらうために、まずはすでに韓国と交流の機会が多い九州の学生(韓国語学科、国際学科、観光学科など)を中心に宣伝し集客する。同様に韓国人学生も日本に興味がある人を中心に集客する。今回は第1回目ということで試験的に70人程度だが、今後はこの活動が回数を重ね浸透していくにつれて、年齢層や日本や韓国、対馬に関心が薄い人にも宣伝、PRしていきたいと考えている。

・イベントの目的、狙い

ここで使う酒は対馬、長崎、九州といった対馬や韓国とゆかりのある酒蔵や酒造メーカーに限定することにする。そうすることによって、歴史がある酒をきっかけに、さらに対馬や韓国の歴史を学んで欲しい。

・経費

このイベントは「利き酒イベント」のため、日本酒などの酒類の調達が必要となる。そのため九州、対馬の酒蔵や酒造メーカーに宣伝も兼ねてスポンサー契約を結び、協力を依頼する。また参加費を1000円ほど徴収し、地元の住民にもおつまみや手料理を振舞ってもらう。

期待される効果

島を一つに

利き酒イベントは、食、お土産、宿泊など様々な分野と組み合わせが可能。島全体が一つのイベントに関連することにより、観光に対する理解や方向性を共有することができる。今後韓国人観光客などへの対応の統一化にも繋がる。

国際交流の場

日本人観光客、韓国人観光客、島民が一つのイベントに参加し文化交流、交流の場となる。また、日本人学生に参加してもらうことによって、対馬への日本人観光数の増加が見込める。

対馬、九州のPR

対馬を始め、長崎、九州の酒造協会に協力を依頼することで、各酒造にとっては宣伝効果、九州各地へのインバウンド旅行者の誘致にも繋がり対馬を起点とした酒ツーリズムをさらに開拓していくこと見込める。

地元経済の活性化

このイベント後、二次会感覚で地元居酒屋、飲食店等への誘導、宿泊客の増加が見込める。これにより、観光客一人あたりの消費額増。

・問題、課題

①このイベントは韓国人観光客の対馬での観光のマナー改善が第1の目的だ。そのためには、観光する側もだが、受け入れる側を韓国人観光客というだけで意味なく嫌うことをやめて欲しいと思う。つまり、このイベント後には観光客側も島民側も相互理解をし、島民の中には固定概念が強く韓国人観光客を受け入れない姿勢の人たちがこのイベントで少しでのその姿勢が和らぐかが問題である。

②酒を使ったイベントのため、現地での飲酒運転などの心配がある。そのためイベントの警備や参加者の把握は重要になる。

③このイベントには酒造協会の協力や有識者などの参加、派遣、協力が不可欠であり、その人材の確保が必要である。

・最後に

このようなイベントは短期的な効果は高いが、持続性がない。このことを理解した上で根付かせていくためには、定着させる方法と仕組みを合わせる事が重要となってくる。

参考文献

- ・国土交通省観光庁 外国人消費動向調査
<http://www.mlit.go.jp/kankocho/siryou/toukei/syouthyouusa.html>
- ・朝日新聞 韓国人客30万 歓迎と摩擦と
- ・対馬市 観光交流商工部 観光商工課 平成29年対馬市観光振興推進計画 対馬市の観光における現状と課題